



去る3月11日に発生した東日本大震災は、M9.0という最大級の揺れと東北地方沿岸部全域に及ぶ大津波をも誘発し死者、行方不明者は2万5千人以上に及ぶ近代日本史上、最悪の災害となりました。

加えて、福島原発の事故は未だに、その根本的解決を見ないまま、時間が経過し続け、被災地の方々はもとより日本国民全体に先の見えない不安や不信感を深めているばかりか、諸外国からの日本への信用力が日に日に低下しており、まさに最大の国難に直面しているのは今さら言うまでもありません。徳真会グループも、仙台に五つの診療所と一つの技工センターがあり、約150名のスタッフが働いており、1日約600名を超える患者様の治療を行わせて頂いている地区であります。

震災時私は東京本部にいましたが、刻々と入ってくる情報で事の重大さに驚き、上越新幹線が動き始めるのを待って、13日に東京から新潟へ動き、物資を積んだ車と共に山形経由で仙台に入り、徳真会の震災対策本部を現地で立ち上げ、新潟からの物資や人の後方支援、東京本部からの正確な原発情報の定時連絡体制を引くなかで各診療所での診療再開をライフラインの復旧具合に応じて14日から行いつつ、地元被災者の方々への給水、物資等の支援体制を、組織の出来る限りのレベルで行わせて頂きました。

そうした経験も踏まえて見るに、日本の政府そして東電の対応には、著しく疑問を抱かずにはられません。

こうした災害の際は、スピードが絶対的に必要だと思います。そして、本当の情報は被災地に行かない限り解らないのも事実です。

トップ自らまたは、それに準ずる人が現地で対策本部を立ち上げ、時には超法規的に速やかに問題に対応していたとしたら、ここまで問題が大きくなってはいないと私には思えてなりません。

私見ではありますが、一次災害への対応は、物資と義援金等の資金とボランティア等の労働力を速やかに送り込む事だと思います。

次に一次災害への対応が遅れば遅れる程二次災害が広がります。

いわゆる、東北地方での産業の停滞による関連産業への影響、加えて、計画停電や風評被害による経済活動の低迷、そして企業の海外移転による産業の空洞化等の二次災害ですが、これはすでに始まってきており、日増しに深刻な状況になりつつあると思います。

こうした二次災害を最小限にとどめるには、被災した地元企業の業務の再開を民官挙げて速やかに行い、雇用の確保と産業全体への悪影響を最小限にとどめることだと思います。

加えて、私は、三次災害を心配しています。

それは、被災者の方々が、「自立の意欲」を失くしてゆかれる心理的災害だと考えます。

一番深刻なのは、人の気持ちが明日への希望を無くし、自立心を失ってゆく事にあると思うのです。

つまり災害時の一番根本的支援は、いわば「自立支援」にあると私は思っております。

中国明時代の呂新吾の呻吟語の言葉に「四看」という言葉があります。

**大事難事に担当を看る**（仕事が背負えるがどうかをみる）

**逆境順境に襟度を看る**（心の出来ばえをみる）

**臨喜臨怒に涵養を看る**（徳性や忍耐力をみる）

**群行群止に識見を看る**（衆人の中に交じって自分がどう処するかの自主的判断力をみる）

と言っています。

こうした日本の根幹に関する大事の時に於いて政府や、巨大企業のリーダーがその資質を欠いた人であった事は、残念ながら日本にとって最大の不幸である様に思います。

こうしたリーダー不在の有事下においては、我々国民一人ひとりが自分たちに出来る事から、日本救国の活動を行うしかないと思います。

再建への道は長い時間を要すると思いますが、次世代の日本が希望に満ちた国家に生まれ変わる大きな節目の時だと考え、互いに復興への努力をやって参りましょう。